

野の仏ギャラリ⑤

不空絹索観音坐像

東多久町大通院(常應寺)

頭上にティアラ状の宝冠を戴き、頭髪を三山髻に結び上げ、顔は穏やかな表情です。正面で合掌し、下方の右手に絹索、左手に念珠を持っています。舟形光背に刻まれた右手は錫杖、左手は蓮華を持ち、持物のない手が左右に一つずつあります。別造りの蓮華台があります。

銘「第九番不空観世音南圓堂」芦刈村施主大村芳隆



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○不空絹索観音は天台宗系六観音の一つで、造像の例は稀です。  
○絹索は鳥獣をとらえる縄のことで、慈悲の絹索で一切の衆生を救います。  
○銘の第九番は西国三十三所の順番で、南円堂は奈良市興福寺にあります。

今月の論語

約を以て  
これを失う者は鮮し

思い上がって勝手にするとやりすぎ、しくじりがあります。ひかえ目に失敗はない。

今月の福宅放送は、東原岸舎西溪校9年の中島右勢さんです



教育長コラム

ちよっとい話

子どもは親への思いやりでいっぱい

不自由はないのか。辛い思いはしていないのか。原因は何なのか。気になっていた。担任をして日が浅い時期で、本人にそこまで尋ねるのは控えていた。

家庭訪問で、保護者に伺うことができた。いや、あちらから話してくださった。家畜を育てる夫婦は忙しく、休みもなく、その一人娘と遊ぶ時間もとれない。幼い頃は、家畜小屋の両親の傍から離れず過ごすことが多かった。ある日、見よう見まねで手伝おうとした娘は、誤って機械に手を吸い込まれ指が数本なくなった。

娘の失くした指への後悔に、十数年経ってもご両親は苦しまれていた。「肩身の狭い思いをさせてしまった」

しかし、娘は、親よりも更に相手を慮っていた。「利き手じやなくて助かった。何でもできて、全く困らないし不安なんてありませんよ、先生」

教育長 田原優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 目覚ましの要らない朝の心地よき 散歩しながらゴミを拾って 野崎 隆幸
- ◆ この街でわが定命を終ゆならむ 暮れゆく山なみ月明かり見ゆ 浦野 嘉恵
- ◆ 波の音聞きたくなくて海へ来る 打ち寄せる波に母の声聞く 梶原恵美子
- ◆ 虫鳴くと告げしも夫は首を振り 聞こえぬと言う寂しさ夕べ 川浪 信子
- ◆ 剪定の音歯切れよく子の手なる 幹のびやかな生垣生まる 尾形 節子

俳句 《互選》

- ◆ 夕管のひらく暮色の風さやか 本村 則子
- ◆ 夏休み学習塾のにぎやかに 倉成 皓二
- ◆ 銀漢の下にどの家も眠りけり 富樫 明美
- ◆ お別れの言葉濁せし女郎花 中嶋 清子
- ◆ みんなんと蝉も唱和す墓前かな 中嶋 清子

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 老練に生きて若さも秘めている 西山 残月
- ◆ 口笛が上手になった反抗期 三塩 不二子
- ◆ 高値の秋刀魚我が家の膳で 威張ってる 田中 正春
- ◆ 白も黒「そうか」と云えぬ 夫の意地 高塚 ちかこ
- ◆ そんな事打ち明けないで 欲しかった 大谷 和